

RI第 2820 地区

水海道ロータリークラブ



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012年度 テーマ

相互の理解と
地域との つながり

2011-2012 年度 RI会長
カルヤン・パネルジー

次回例会予定 11月9日 ボーイスカウト・ガールスカウト
11月16日 常総警察署 署長

VOL. 49 No.16(通算No. 2297)

2011年11月2(水)例会プログラム

点 鐘

君が代・ロータリーソング

ビジター紹介

出席報告

SAA報告

諸 報 告

幹事報告

会長挨拶

外部卓話

RI第1ゾーンARRFC 北村 仁様



「富士山 10月16日撮影」

写真提供: 古河市在住 和久知寛様

2011-2012年度

会長 大塚 令昌

幹事 齋藤 広巳

創立 1963年9月25日

《例 会 場 ・ 例 会 日》

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町 2790

常陽銀行水海道支店内 3F

毎週 水曜日 12:30~13:30 ☎ 0297-22-1251

《事 務 所》

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町 3386

釜久ビル 3F

Tel.0297-30-0875

Fax.0297-30-0876

E-mail mitsu-rc@lapis.plala.or.jp

URL <http://www.mitukaido-rc.jp/>

10月は職業奉仕月間・米山月間です

THE WEEKLY REPORT

例会報告 Vol.49 No.15 (No.2296) 10月26日(水)晴れ (司会 熊谷 昇副委員長)

本例会での主な事項

☆会長挨拶

☆ 会員卓話 松坂興一会員

入 会 式



高須 薫会員

誕 生 祝



《会員》穂戸田好範会員

《廃患者》高須会員 二本松会員

幹 事 報 告 齋藤広巳幹事

週報受理クラブ なし

例会変更通知 なし

臨時理事会報告

1.タイ災害義援金について

500円/1人 ワンコインより拠出

……承認されました……

水海道ロータリークラブ現況報告書製本のお手伝いをお願いします。

11月9日(水) 午後6時より 商工会において 宜しくお願い致します。

会 長 挨 拶 大塚令昌会長



10月も最終例会となりました。今日は松坂会員に卓話を戴く事になりました。宜しく願申し上げます。

私の事で申し訳ありませんが、先日三ヶ村立絹西中学校の同窓会がありました。三ヶ村立とは、坂手・内守谷・菅生の三つの村の中学校です。年齢も後期高齢者です。この高齢者が2泊3日で黒部に行きました。

谷和原を出て中央高速にて、長野県は信州大町温泉に泊まり次の朝ホテルを出発、黒部ダムへと参りました。黒部はご存じの通り86kmの黒部川を利用し、水力発電を行っております。現在総計89万kwを発電し、昭和29年に着工し7年の歳月と1千万人の手と513億円の工費で、昭和38年6月に完成。関西電力の不足の電力を補っているようです。

立山を出て温泉に一泊、翌日一路茨城へと参りました。運転は誰一人交代せず私がエイジシュウター往復760KMを交代無しでした。現在の福島原子力発電と違って大きな活力となっています。

10月は職業奉仕月間・米山月間です

THE WEEKLY REPORT

会員卓話

ロータリー雑感(近ごろ思うこと) 松坂興一会員



前回の卓話が時間の都合で、途中で終わってしまいましたが、週報には掲載されました。

皆さんお読みに為られたことと存じますが、今一度ロータリーに対する私の考えを、述べさせて戴きたいと思い、再度の登場ということになりました。

当然もう充分だと多数の方々がお思いでいらっしゃると思いますので、どうぞお休み頂き、お気軽にお聞き戴ければと存じます。

たしか前回は、最後に”水海道ロータリークラブ万歳”と叫んで終わったと思いますが、何故<万歳>なのか、その経緯については、お話しする時間が御

座いませんでした。

そこで今回は、その前段についてお話いたしたいと思います。

私が当クラブに入会いたしましたのは、今から33年前の1978～79年度であった事は、お話いたしました。この時私は41歳でありましたが、事業として水海道厚生病院を設立いたしましたのは、10年前の1968年31歳のときでありました。従いまして今日に至る33年間に渉るロータリアンとしての生活は、ほとんどといって、実業人としての生活と重なるものでした。私にとりまして、ロータリークラブとは単なる奉仕団体などではなく、まさに人生に於ける修練の場であり、自己研鑽の場でありました。

もともと私自身振り返って見れば、欠点だらけの人間で我儘で、その上傲慢無礼、人を人とも思わぬ処があり、まこと許し難い人間でありました。

然しながら、入会以来今日に至るまで、ロータリーに居ることで、教えられたことは数限りなく、それが貴重な道標となり、常に足元を照らしつづけてくれました。

元来実業人・職業人の代表でもある集まりのロータリークラブでは、仮にその人の言動が、不適切あるいは不当のものであっても、直接的には当人に対して誰も非難がましい事を申す人はいないでしょう。

それ故に、過信してしまうこと、あるいは自己欺瞞に大変陥りやすいのであります。

考えてみますと、ロータリーは大変恐ろしい処でもあるのです。従って常に求められるものは、謙虚さであり、謙譲であることが美德とされる所以であります。

完成された人間など、めったに居るものではありません。

ロータリークラブも然り、不完全な人々の集まりでもあります。ロータリーの有効性というものは、先ほど申したように、欠点について、誰もなかなか指摘してくれない為、常に己の言動を自らチェックしなければ、ならないということです。

ロータリークラブには様々な職業の方々がおります。

この方々こそ、ある時は教師であり、又ある時は反面教師となってくれるのです。

ロータリーは恐ろしくもあり、又素晴らしい教室でもあるのです。心の持ち方一つで、向上心さえあればこれ程有用なものはありません。大いに利用すべきであります。

今一つロータリーの有効性は、ロータリアンとして知り合うことが出来た多くの人達の存在であります。

私にとりましては、掛け替えのない貴重な財産であります。

今私はロータリアンであることを、こころから誇りに思っております。そしてこの後“水海道ロータリークラブ万歳”と続いたのであります。

ここまでが前回の卓話の部分であります。

さて、昨今のロータリーについては、如何でしょうか。

御承知でしょうが、国際ロータリー(RI)はロータリークラブ(RC)によって構成された連合体であります。

そしてRCとは、RI定款および細則に従って結成された、クラブという訳です。

クラブがRIに加盟するには、クラブ定款として、標準ロータリークラブ定款および推奨ロータリークラブ細則を採択せねばなりません。

10月は職業奉仕月間・米山月間です

THE WEEKLY REPORT

ただし例外があって、1922年以前に結成されたクラブは、独自の定款、細則が認められています。

日本で申せば、大正11年以前ということになります。

私達ロータリアンは、RIのメンバーではなく、RIに加盟している処のRCの構成員ということになります。

RIは全世界のRCの連合体であり、その目的、使命というものは、他者への奉仕であり、高い倫理基準を持つ実業人、専門職業人すなわち地域のリーダー間の親睦を通して、世界理解、親善、平和を推し進めることであります。

従って、お解かりと存じますが、奉仕を志す人達で構成されているのがRCであり、唯単に奉仕団体のメンバーであることが、ロータリアンでは無いのです。

I saveこそがロータリアンであって、決して We save ではないのです。

己が奉仕するのであって、集をなして成す事では無いのです。

それ故に、非常に高い倫理観を持つ為の、品位が求められる訳であります。

個人生活、事業生活、社会生活と、何時いかなる場においても“奉仕の理想”を適用することが求められるのであります。

このように全てにおいて、厳しい基準が要求されるRCの総本山がRIなのですが、近頃異変が起きた様に思われるのです。

私自身の感じているところを、言わせて頂くなら、本来あるべきロータリーの思想とは、大きな隔たりを、感ぜずにはおられません。

先々週でしたか、職業奉仕について、清水パストガバナーの卓話がありましたが、その中で“奉仕の理想”についてロータリーは哲学であると述べられておられましたが、ロータリーの目指すところは“哲学”であると私も思っております。

では“哲学とは何ぞや”と申せば、辞書を引いてみると哲学とは“諸科学の基礎づけを目指す学問であり、人生の根本原理を追求する学問でもある”とあります。

ロータリーが掲げる究極の目的“奉仕の理想”は人生に於ける根本原理の追求とまったく同一線上にあり、哲学そのものと申す事が出来ましょう。

然しながら、最近のRIが次々に打ち出してくる提案・決定には、どう考えてみても大きく道を外しているとしか思えません。組織の巨大化がもたらした、弊害であるとしか思えません。

確かに創立時とは時代も大きく変わり、人々の価値観も又考え方も全く変わったと申せましょう。

然しながら究極の目的と掲げた“奉仕の理想”の哲学は決して、変わることは、無い筈であります。

RIが求めているところは、唯ただ組織の拡大と会員の増強しか、念頭にない有様に思えてなりません。

勿論組織であるが故に、増員も拡大も必要でありましょう。

然しながら、それには或る節度が、無ければならないはずであります。この節度こそロータリーを高みに置いているものと、思うわけであります。

このことこそが、地域にあって、ロータリークラブの存在が認知され、また地域におけるステータスとしての存在でもあった訳であります。

従ってロータリアンは、選良としての認識を持ち、自らの言動について責任と謙虚さを求められた訳であります。

この様な高い次元での要望に答える為に、我々は常に努力いたして居る訳であります。

この認識こそ、ロータリアンとして誇りに繋がるものと、思っております。

奉仕事業を行うにあたり、資金の必要は当然であり、その為の寄付は十分承知致しておりますが、余りにも資金需要の重点を置くあまり、本来のあり方を忘れ、例えばポリオ資金のビル・ゲイツ氏からの資金提供を、無条件で受け入れる等、従前では考えられない事が行われております。

まるで拝金主義そのもの如く、思えてなりません。

苦言ばかり申している様で、私自身心苦しく思っておるわけですが、北村会員はパストガバナーとして、

10月は職業奉仕月間・米山月間です

THE WEEKLY REPORT

第一ゾーンのコーディネイターを引き受けられ、大きな貢献を成されておる訳ですが、現今のRIの動向について、どのようにお考えなのか、又クラブの方向性についても、どの様にあるべきかご指導戴ければと、思っております。いずれ十分に時間をとっていただき、ご教示頂けるものと期待致しております。

さて当クラブも、来年いよいよ創立50周年を迎えることと成りました。

先だって鈴木先生の卓話で創立時のお話を伺い、興味深く聞かせて頂きました。

いかにも当地に於ける、ジェントルマンの集まりとも、或は歴史ある街の旦那衆とでも申しましょうか、実におおらかで、これぞロータリークラブであるとの、素晴らしいお話で有りました。私の入会は16年後であります、まだチャーター・メンバーの方々が、多数在籍致して居り、創立時の雰囲気はまだ残っていた様に思えました。

今日に於いても、古き良き時代の雰囲気は、伝統的に綿々として受け継がれており、地区においても一味違ったクラブとして評価されておる訳であります。

従って創立50周年記念式典と記念事業は内外共に大きな評価を、得られるもので無ければなりません。幸い満を持しての、青木正弘会長年度で有り、鈴木 豊実行委員長のもと、各委員長も決まり、あとは動き出すばかりと成っており、一安心であります。

当クラブは真に多士済々、人材には本当に恵まれております。会員が一丸となって、事に当るならば素晴らしい記念式典・記念事業ができるものと期待致しております。

私も一員として、参加できることを、名誉に思っております。私たちは此の50周年を契機として、希望に満ちた新しい一步を踏み出してまいります。

以上をもちまして私の卓話とさせていただきますが、最後に一言

水海道ロータリークラブは永遠です！

御清聴有難う御座いました。

出席報告 (登坂 寛委員長)

会員総数	出席者数	欠席者数	賜暇	メーク	出席率
56名	41名	15名	0名	15名	100.00%

ニコニコボックス 五木田裕一副委員長

入金計 ¥36,000 累計 ¥778,000

誕生祝御礼《会員》穂戸田会員 《配偶者》高須会員

本日入会、これからよろしく願います。 高須会員

久しぶりに出席させて頂きました。誕生日のお祝いも頂き、ありがとうございます。 穂戸田会員

10月22日 北京で開かれた米山記念奨学会中国学友会に出席して来ました。山崎PG、廣瀬PGと一緒に。 田上会員

本日の卓話、宜しく願います。 松坂会員

松坂会員の卓話楽しみにしています。 斎藤・松村 各会員

改めまして前年度会長・幹事さん、ご苦労様でした。本日慰労会を申し訳ありませんが欠席させて頂きました。 秋田会員

2週間例会を休ませて頂きました。 鈴木(豊)会員

例会欠席しました。 二本松会員

会報委員会

青木清人委員長

松崎隆司副委員長

木幡 浩委員

価値を決めるもの



ロータリーの兄弟・姉妹の皆さん、

1885年、『ロンドンタイムズ』は、ビクトリア女王によって騎士に叙された、イギリスの資本家で慈善家のモーゼス・モンテフィオーレ卿の100歳の誕生日に榮譽を表して論説を連載しました。この論説では、彼の誠実で寛容な精神や、困っている人がいれば助けにかけつけるという彼の心意気が述べられています。中でも1つの物語が特に印象に残りました。

他の人々と分かち合うこと

ある人が、当時、富豪の一人であったモーゼス卿に、自分自身の価値がどれくらいだと思うかと質問しました。このようにぶしつけな問いかけに直面して、彼は少し考えて数字を挙げましたが、それは質問者の期待にははるかに及ばないものでした。当然のことながらその回答は反論を呼びました。確かに、間違いなく彼はその10倍の価値がありました。モーゼス卿はちょっとほほ笑んで「若者よ、君は私にどれくらいもっているかを聞かなかつた。どれくらいの価値かを聞いた。だから私はこの一年間に慈善事業にいくら使ったかを計算してみた。それが君への返事の数字なのだ。おわかりのように、人生で他の人々と分かち合うことをいとわない分だけが私たちの価値なのだ」と答えました。

私たちが自分自身の価値を計算する時、その価値は自分たちが何を持っているかで考えますか。それとも、持っているものをどう使うかで考えますか。人間は皆同じ価値があると言う時、私たちは文字通りの行動をしているのでしょうか。

ロータリアンであるということは、私たちの資源の全てをさまざまな角度から見るができるということだと信じています。自分が持っているもので何をなすのが最善の選択なのでしょう。何を選択すれば究極的に私たちが最も豊かであり続けられるのでしょうか。

人々の生活を変えるロータリー財団

ロータリーにおいて、私たちは皆、世界のとても多くの地域で大きなニーズがあることを認識しています。そして私たちは皆、ロータリー財団を通じてどれほどの援助ができるかも知っています。もし私たちが望めば、私たちは人々の生活を変えることができ、希望を呼び戻し、未来を築くことができます。

人生はすべてが選択です。私たちは自分のものを自分自身のためにとっておき、他人の問題は自分には関係ないといい切って、他人のニーズに目をつむるという選択をすることはできますが、距離を超え、皮膚の色を超え、言語や着ているもの、そして文化を超えて目を向け、どこにいる人も自分たちと同じなのだと考えて、立ち去るのを拒否することを選択することもできます。

KALYAN BANERJEE
PRESIDENT, ROTARY INTERNATIONAL